

令和6年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号	6	学校名	羽島北高等学校
------	---	-----	---------

学校教育目標 (教育方針)	①すべての教育活動を通して、活気に満ち、明るく特色ある学校づくりに努めるとともに、校訓「誠実・叡智・進取」の目指す生徒の育成に励む。 ②自主自発の精神を高揚し、あらゆる場を通して豊かな創造力と逞しい実践力を兼ね備えた生徒を育成する。		
3つの方針 (スクールポリシー)	どんな生徒を育てたいか 【GP】	<ul style="list-style-type: none"> 思考力と的確な判断力を身に付けるとともに、自ら進んで学ぶ態度を身に付け、自分の意見をしっかりと持ち他者と協働して課題解決に取り組む生徒 心豊かで思いやりがあり、多様な人々の互いの人格を尊重する人権感覚に富む生徒 地域社会の一員として積極的に考え行動し、常に進取の気概に富む21世紀を担う国際性を備えた生徒 	
	生徒をどう育てるか 【CP】	<ul style="list-style-type: none"> 課題発見力・課題解決力を育成するための「課題自体の背景の研究やその調査、探究的な学び」・「主体的・対話的で深い学び」・「キャリア教育」の推進 多様な授業形態や活動を「探究的な学び」・「各教科学習」・「高大連携」・「地域連携」に取り入れるとともに、ICTの活用による生徒のコミュニケーション能力伸長と発信力の育成 生徒一人ひとりの個性や長所に応じて、その能力や特性を十分に伸長するとともに、「私が決める、私の未来」と題された生徒本人が自身の進路目標に沿って構築する本校独自の年次を超えた単位制カリキュラムの実施 	
	どんな生徒を待っているか 【AP】	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣を身に付け、お互いや他者の多様性を尊重し、協働しながら主体的に学ぶ意欲のある生徒 自ら進路志望の明確化を図り、多様な学びに主体的に取り組み、自己の可能性に挑戦し充実した学校生活を送る意欲のある生徒 生徒会活動や部活動などの校内の活動や地域貢献活動などの校外の自主的な活動やボランティア活動に積極的に参加し、より良い学校や社会を築いていこうという意欲のある生徒 	
学校の抱える課題	◇生徒一人ひとりのニーズに合った教育課程の編成と教科指導 ◇本校特有の教育課程に伴う業務への多忙感		
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標	
	学習指導	授業改善を継続し、個々の生徒の学習への興味・関心を高め、確かな学力の定着と課題解決能力の育成を図り、進路目標達成に向けて努力する姿勢を養成する。	
	進路指導	生徒の能力・適性や進路希望等に即応する教育課程により、生徒一人一人が意欲的に継続して学習に取り組み、確かな学力を身につけ、進路目標を達成できるよう図る。	
	生徒指導	豊かな人間性と自主自律の心を養い、学業に目的意識をもって意欲的に取り組む生徒を育てるために、全職員の十分な連携のもとに、信頼と愛情を基盤とした生徒指導に努める。	
特別活動	生徒会行事・部活動・各種の地域貢献活動への積極的参加を促し、生徒の自主的な活動を援助し、より充実した学校生活となるように努める。		

年度目標			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な具体的取組・方策	県教育振興基本計画での位置付け	達成度の判断・判断基準あるいは評価指標
学習指導	・本校生徒のニーズに合わせた教育課程や指導内容の見直しを行う。	20	施策Ⅳ-20
	・基礎学力の向上を目指し、スタディサブリの活用を含めた学習指導を計画し実施する。	23	施策Ⅳ-23
	・総合探究、LHRの内容のさらなる精選を行う。	4	施策Ⅰ-4
	・「オンラインスタディツアー」や「海外研修」等の「国際理解教育」について、内容・運営等の充実を図る。	11	施策Ⅱ-11
進路指導	・進路選択の視野を広げ、高みへ挑戦する動機付けにつながる支援を継続する。	8	施策Ⅱ-8
	・進学指導重点校事業を活用し、探究活動、面接・小論文・志望理由書対策等の指導力の強化を図る。	8	施策Ⅱ-8
生徒指導	・全教育活動を通じて、全教員が生徒理解に努め、生徒一人一人が自己実現できるように支援する。	1	施策Ⅰ-1
	・外部講師による講話等により、生徒の規範意識を高め、問題行動等の減少を図る。	19	施策Ⅲ-19
	・アンケート等を活用することで保護者の要望を把握し、規範意識向上のための指導に努める。	3	施策Ⅰ-3
特別活動	・地域の活動の様子を伝え、ボランティア活動を活性化し、地域社会の一員としての自覚を促す。	1	施策Ⅰ-1
	・北翔祭や球技大会等の学校行事において生徒による企画や運営主体を促す。	24	施策Ⅳ-24
	・部活動への積極的参加を促し、生徒の自主的な活動を支援する。	24	施策Ⅳ-24

年度末評価(自己評価)			
取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合評価 A. B. C. D
<ul style="list-style-type: none"> ・次年度入学生の教育課程を見直し、進学に向けた確かな学力の養成を目指したカリキュラムとした。 ・授業ではスタディサブリを補助的に活用した。また、内容によっては家庭学習で補うことを目的に積極的に利用した。 ・地域社会の一員として意欲的に取り組む活動ができた。探究活動の内容を詳細に打合せて、副担任を中心に年次職員の共通理解のうえ活動したのはよかった。 ・オンラインスタディツアーは生徒が主体的に動くことのできる内容にした。海外研修（R6再開）は事前研修を計画的に行った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○本校生徒の学力向上、進路希望に即した教育課程が整いつつある ▲▲ 調査時間割作成の煩雑さ、3年次特編授業の内容について継続した検討が必要。 ▲▲ LHR/総探の計画の中に、進路に関する時間が少ない。 ○海外研修が再開でき、充実した内容となった。今後は隔年で行う予定である。 	B
<ul style="list-style-type: none"> ・1、2年次から進路選択について継続的に意識づけをし学習意欲の定着を図ることができた。 ・3年次の総探の時間における志望理由書・面接・小論文の指導については、オリジナル教材およびスタディサブリを用いて、計画に基づき実施することができた。 ・特編授業の内容ををより学力向上を目指したものにした。 ・本件に係る保護者・生徒アンケートの満足度は80%以上であった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○共通テストの受験者数が昨年度より増加した。 ▲▲ 進路決定後の学習意欲をもっと高める工夫が必要である。 ○主に3年次生が取り組んでいる全統模試の希望者が1、2年次生にも現れ始めた。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・心の不調を訴える生徒の対応を丁寧に行い、不登校やいじめ被害などの未然防止を図った。 ・外部講師による講演会等を多く企画し、生徒の規範意識等を高めるとともに、マナー等の指導も充実させた。 ・MSリーダーズの生徒により挨拶運動や、ヘルメット着用を啓発した。 ・12月時点の不登校件数(R5年11→R6年9)、交通事故発生件数(R5・R6年ともに21件) 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○スクール相談員、スクールカウンセラーとの連携を密に取り組むことができた。 ○事案に対し、生徒の指導、連絡を徹底することができた(保護者へは文書、スグール)。 ▲▲ ヘルメット着用率が低い。自転車による交通事故発生件数が減少していかない。 ▲▲ 服装の乱れ、授業規律に対する統一した指導、職員の共通認識が必要。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事、高校生によるミニ教育実習などを生徒に積極的に周知し、また図書委員による柳津小学校へのボランティア等を企画し、参加者が増加した。 ・生徒会活動、学校行事は、以前より意欲的で、生徒達自身で活動する姿が増してきている。 ・部活動は、以前より真面目に取り組む姿が多くなっており、大会等の入賞等も増えつつある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒自身が様々な活動に参加する機会が増えており、進んで取り組もうとする意欲が向上している。 ▲▲ もっと生徒の活動を前面に出し、自分達の学校という意識を持ちながら、様々なことを考え取り組めるようになることが求められる。 ▲▲ 部活動の加入率が以前より下がっている。 	

来年度に向けての改善方策等

実施日：令和7年1月20日

<p>進路志望の明確化、学習に主体的に取り組むために（学習指導・進路指導）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修や情報交換（ICT、スタディサブリ活用等）による教員の授業改善の推進 ・学力向上、進路実現をより意識させた授業改善、模試、補習等への取り組みの推進 <p>基本的な生活習慣の確立のために（生徒指導・学習指導）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業規律、制服の正しい着こなし、交通マナー向上等の取り組みの推進 ・全職員の共通認識により取り組む生徒指導の実施 <p>地域に根差した学校づくりのために（特別活動）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動や地域におけるボランティア活動のさらなる参加の促進 ・生徒の力による生徒会活動、学校行事の支援
--

学校関係者評価

実施日：令和7年2月3日

<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導・進路指導について、進学を志して入学してくる生徒に対して、その希望を叶えるための学力向上の指導とともに、進学先での取り組みや目標等、進学後のビジョンについて考えさせる指導も重要である。特に本校生徒は大学受験を意識するのが遅いと感ずるので、早い段階から進路決定について様々な刺激を与えてほしい。 ・本校在学中から、大学卒業後において地元産業へ興味・関心がもてるような情報提供とともに、全国的に地方産業が衰退している中での進路指導の工夫もお願いしたい。 ・本校生徒の自転車マナーは素晴らしい。ヘルメット着用等の取組みも行っており、学校が懸念しているほど悪くない。 ・ボランティア活動に積極的に参加してくれる生徒が多い学校であり、卒業生のボランティア活動への意識も高い。生徒から活動のニーズなどを掴み、内容を充実させてほしい。
--